(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和6年度】

(評価日 令和7年6月26日)

1 施設の概要

施設名	岩手県立図書館 (いわて県民情報交流センター内)
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号 電話 019-606-1730 FAX 019-606-1731 ホームページ http://www.library.pref.iwate.jp/ 電子メール homepage@library.pref.iwate.jp
設置根拠	いわて県民情報交流センター条例、図書館条例
設置目的	(設置：平成18年4月1日) 図書館資料を収集し、県民の利用に供すること等により、生涯学習の振興及び文化の発展に寄与する。
施設概要	敷地面積、建物面積、主な施設、利用定員等 (1) 敷地面積 9,000 m ² (2) 建築面積 7,855 m ² (3) 延床面積 45,875 m ² (県立図書館：10,590 m ²) (4) 階数 地下1階、地上9階 (県立図書館：1～4階の一部) (5) 建物高さ 最高部高さ 47.4m (6) 構造 鉄骨造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造) (7) 入居施設 次の公の施設及び行政機関等並びに民間施設が入居する大型の複合施設である。 ① 公の施設： ア 県民活動交流センター (NPO活動交流センター、国際交流センター、環境学習交流センター、青少年活動交流センター、男女共同参画センター、高齢者活動交流プラザ、子育てサポートセンター、ホール・会議室等貸室) イ 岩手県立視聴覚障がい者情報センター ウ 岩手県立図書館 ② 行政機関等：盛岡運転免許センター、岩手県パスポートセンター、岩手県建築住宅センター、岩手県立大学アイーナキャンパス ③ 民間施設：飲食店3店舗、コンビニエンスストア1店舗
施設所管課	県立図書館 (運營業務)：岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 (電話 019-629-6171、メールアドレス DB0005@pref.iwate.jp) ※いわて県民情報交流センター (県立図書館を含む維持管理業務)： 岩手県環境生活部若者女性協働推進室

2 指定管理者

指定管理者名	株式会社図書館流通センター
指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日 (5年間)
連絡先	岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号 岩手県立図書館事務室内 電話 019-606-1730

3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	岩手県立図書館の運営業務		
職員配置、管理体制	47名 (令和6年4月1日現在)	組織図 別添「岩手県立図書館指定管理者 株式会社図書館流通センター組織図(2024.4.1)」のとおり。	
	(内訳) 無期契約者:26名 有期契約者:21名		
利用料金	徴収していない		
開館時間	9時00分～20時00分	休館日	月末・年末年始・年度末特別整理日

4 施設の利用状況

(単位:人)

(利用者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間						備考
		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	期間平均	
第1四半期	75,276	82,541					82,541	
第2四半期	84,850	99,798					99,798	
第3四半期	76,851	90,363					90,363	
第4四半期	77,577	87,921					87,921	
年間計(実績)	314,556	360,623					360,623	

5 収支の状況

(単位:千円)

区分	前期間平均	指定管理期間						備考
		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	期間平均	
収入	指定管理料	172,844	176,322				176,322	
	複写料金	639	710				710	
	小計	173,483	177,032				177,032	
支出	人件費	156,379	158,851				158,851	
	一般管理費	17,104	18,181				18,181	
	小計	173,483	177,032				177,032	
収支差額	0	0				0		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	館内への投書箱の設置、来館者アンケート調査及びウェブアンケート調査の実施、カウンター業務従事者による利用者の声の記録。	実施主体	株式会社図書館流通センター
------	---	------	---------------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 13 件、要望 16 件、その他 0 件		
主な苦情、要望等	対応状況		
① 中高生の席利用マナーに関するご意見が複数（席を学生用と一般用に分けてほしい、中高生の一部が荷物を置きっぱなしにしており通行の邪魔 など）	① 館内閲覧席は、使用目的により「図書館資料閲覧専用席」と「それ以外の自由に使える席」とに分けて運用している。後者は学校のテスト期間や長期休業を中心に混雑し、左記のようなマナーの低下が見られる。定期巡回時の声掛けや掲示物での啓発、開館待ち時間中のアナウンスなど、マナー向上に向けた取り組みを継続的に行っている。		
② 資料を複写する際、複写作業を図書館職員が行うように検討してもらいたい。	② 全ての申込について職員が複写作業を行う運用とした場合、繁忙期を中心に業務量の極端な増加が見込まれるため対応は難しい。ただし、現在の運用であっても、機器操作が難しいような場合は職員が複写作業を代行している。		
③ くらしコーナーの「シニア」について、館内の蔵書検索機の表示通りに探したが見つからなかった。見出し板などを使い、請求記号が分かるようにしてほしい。	③ 令和6年度の蔵書点検期間中に館内の蔵書検索機の設定を見直し、「くらしコーナー」のジャンル（シニア、健康、家庭、生活）ごとに配架場所が表示されるよう変更した。		
<p>その他利用者からの積極的な評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> （えいごのおはなし会参加者より）英会話に興味はあるが、なかなか年齢に見合うものが見つけれないでいたが、丁度良い塩梅の催しで子どもも喜んでいた。こういった催しがあれば、ぜひまた参加したい。<口頭でカウンターにて> カウンター前のミニ展示が面白い。法政大学出版局の『ものと人間の文化』シリーズがあるのは知っていたが、このようにたくさん出版されているのは知らなかった。良い企画。<口頭でカウンターにて> 夏休みの自由研究で行き詰まっていたが、図書館スタッフに相談し、その本をもとに楽しく自由研究をまとめることができた。学校ではインターネットで調べてまとめることが多い。対応した職員の丁寧な対応に、また利用したいと思った。<電子メールにて> 			

7 業務点検・評価（※）

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
1 図書館機能充実に係る業務	1) 運営体制の整備 ・ 運営業務事業計画書の作成 ・ 県と連絡調整会議の運営 ・ 図書館運営の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> I-セミナーの開催、「ぼうさいこくたい2024in 熊本」への参加、いわて防災復興研究会への対応をはじめとしたI-ルームの運営に関する情報や課題の共有を中心に、運営業務全体に係る諸事項を協議するなどして協働体制の維持・推進に努めた。 館内投書箱に寄せられる御意見や御要望は対応方針を記載の上、県職員及びスタッフ全体で情報共有を図った。また、自己評価のため10月に館内で来館者アンケートを、5月から10月にかけてウェブサイト上でのアンケート調査を行った。なお、来館者アンケートの集計結果は、当館ホームページにも掲載している。 	A
	2) 図書館情報システム ・ 図書館情報システムを活用したサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 館内機器及び図書情報システムの不具合発生時には、状況を整理の上、県及びシステム保守管理業者との速やかな情報共有を図り早期復旧につながるよう努めた。 	B
(施設所管課評価)			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 成果のあった点 <ul style="list-style-type: none"> I-ルーム開設に伴い、I-セミナーの開催やいわて防災復興研究会への協力等、利用者の満足度向上に努めている。 ● 改善を要する点 			B

・ 特になし			
2 広報活動の充実に係る業務	1) 広報 ・ 印刷物の発行 ・ インターネットによる情報提供 ・ 報道機関等への情報提供、取材対応	<ul style="list-style-type: none"> 要覧：令和6年5月発行、館報：令和6年10月、令和7年3月発行、利用者向け広報紙：令和6年5月、8月、11月、令和7年2月発行。 I-ルールの活用促進に向け、6月に活用事例をまとめたパンフレット及びセット貸出の利用案内チラシを作成。また「ぼうさいこくたい2024」への出展に向け、10月にI-ルールの紹介パンフレット及び屋外ブースに展示する大判パネルを制作した。 ホームページの運用にあたっては正確な情報の発信を心掛け、当館催事情報を中心に、各読書週間期間中には県内催事情報や岩手県読書推進運動協議会主催事業の情報等を随時掲載した。 X（旧・Twitter）を活用し、日々の業務や館内の様子、資料展示や企画展の開催情報等を発信。令和6年度はI-セミナーをはじめとしたI-ルール関連の取り組みを多く投稿し、コーナーの周知促進と情報発信に注力。8月28日の記録的大雨に際し注意喚起の意味も込めて投稿した盛岡市の水害関連資料の紹介、リアルタイムで投稿した「ぼうさいこくたい2024」の様子などは特にインプレッション数が伸びた。 動画サイトYouTubeに7作品目のおはなし会動画「きつねのずきん」を掲載。また、当館ウェブサイト内に「岩手県立図書館のデジタルアーカイブ事業」と題したページを作成し、廃藩置県前後の県域移行期を紹介するとともに『岩手県管轄地誌』や『内史略』など主なデジタル化資料を紹介。来館者だけでなく県内外にも広く情報を発信した。 情報誌や報道機関への定期的な情報提供、原稿依頼があった際は期日を厳守するなど適正に実施。また、I-セミナーを中心に、集客イベントのニュースリリースを行った。 上記のほか、岩手日報『ジュニアウィークリー』での児童書紹介、IBCラジオ番組での新春イベントの紹介、岩手日報社「野球そばプロジェクト」へのレファレンスでの協力などを行った。 	B
(施設所管課評価) ○ 成果のあった点 ・ X（旧・Twitter）を活用し、日々の業務や館内の様子、資料展示や企画展の開催情報等を発信し、当館のPRに努めた。 ・ I-ルールの活用事例をまとめたパンフレット及びセット貸出の利用案内チラシの作成、岩手日報「ジュニアウィークリー」での児童書紹介等、利活用促進に向け広報を行った。 ● 改善を要する点 ・ 特になし			B
3 図書館資料の収集・整理・保存と活用に係る業務	1) 図書館資料の収集 ・ 図書館資料に関する有用な情報収集、整理、図書資料の選定作業への協力 ・ 資料の収集、納品の確認	<ul style="list-style-type: none"> 出版情報冊子や毎朝の新聞記事のチェック、それらへの継続受入情報や版違い情報の付加など、岩手県立図書館の資料収集業務に資するよう適宜の情報を付加して県へ提供した。 岩手県の各出先機関、県内報道機関及び出版社等に向け、郷土資料及び東日本大震災関連資料の寄贈を呼び掛ける文書を発送した。 「第36回啄木資料展」の開催に向け、過去2年間に発行された石川啄木関係資料の情報を収集し、未所蔵資料の洗い出しと寄贈依頼を行った。 	B
	2) 図書館資料の整理 ・ 資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> I-ルールの運営に係り、これまで所蔵の無かった防災ボードゲームの受入れが多数あった。登録・装備方法の検討、貸出・返却手続き等の運用ルールの整備、また、ゲーム内容・同梱物・対象・プレイ人数・プレイ時間の目安をまとめた案内資料を作成し、今後の利用に備えた。 	B
	3) 図書館資料の保存 ・ 配架、書架整理 ・ 図書資料、視聴覚資料、マイクロ資料等の返却時及び随時点検 ・ 蔵書点検 ・ 資料のくん蒸 ・ 製本、修理 ・ 資料のデジタル化 ・ 定点撮影 ・ 除籍	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書点検は、例年3月末に行っていたが、自動化書庫のサーバ更新作業との兼ね合いで3月10日から16日にかけて実施。開架資料並びに児童書庫資料約13万冊、貴重書庫資料約1万5千点の所蔵状況を確認した。 蔵書点検実施期間の周知は1月から開始。点検結果については令和7年3月26日の週次会議にて報告済み。 5月、9月、11月、2月に定期燻蒸作業を実施。貴重書庫に保管している検地帳、郷土和本、貴重資料の燻蒸を行った。 資料の状態に日頃から目を配り、図書館ボランティアの協力も得ながら破損が軽微な段階で修理するよう努めた。 令和6年度の補修候補資料の選定を行ったほか、震災関連資料及び古文書等の大規模デジタル化作業の実施に係る候補資料の選定に協力。また、デジタル化データの公開に向けた打ち合わせに参加し、今後の作業工程や役割分担を確認した。 資料の利活用促進を目的に、4月から3月にかけて「岩手県立図書館のデジタルアーカイブ事業」と題した展示を実施。また、国立国会図書館主催のオンラインフォーラム、同館と東北大学災害科学研究所が主催 	B

		<p>するオンラインシンポジウムに参加し、他館の利活用推進状況や今後の課題について学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度のデジタル化資料の活用状況は、3月上旬に報告済み。 団体書庫資料の保管転換など現有資料の有効活用にも努めた。 	
	<p>4) 図書館資料の閲覧・貸出等</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンター業務及びフロア管理対応業務 相互貸借 セット貸出 自然災害、防災(東日本大震災津波を含む)関連資料コーナーの継続運営 複写等のサービス 弁償事務 延滞資料の督促 苦情処理等の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 光に敏感な方向けに用意しているサングラスについて、使用する方の特性を考慮し、視認しやすいよう案内表示を白黒反転したものに変更。「耳マーク」についても、従来の表示よりも大きなものに差し替えた。 岩手県が実施する「いわて子育て応援の店(ほのぼの)」事業、盛岡市が実施する「赤ちゃんの駅 DAKKO」事業にそれぞれ登録。赤ちゃん連れでも安心して気軽に出かけられる施設としてのPRにつなげた。 館内の蔵書検索機での「くらしコーナー」配架資料の場所名表示を「くらし/シニア」「くらし/健康」「くらし/家庭」「くらし/生活」に修正。データと資料現物のジャンル分けを対応させ、利用者・職員双方にとって資料を探しやすく、利用しやすい環境とした。 令和6年度のセット貸出は24件、825冊の利用があった。「自然災害・防災関連資料」のセット貸出については、担当部署として「ふるさと未来課」が新設されたこともあり、新たに利用案内チラシを作成して機会あるごとに配布。また、教職員向け研修会等でI-ルーム及びセット貸出サービスのPRを行った。 I-ルームの開設に伴い東日本大震災関連資料の配架場所が大幅変更されたことを踏まえ、館内での出張展示、「盛岡消防フェスティバル」での出張図書館の実施など、I-ルーム以外でも資料を紹介・展示することで利用動線の再構築に努めた。 複写等サービスは、著作権法等の関連法規を遵守し、適正に実施した。 令和6年7月から新紙幣の流通が始まったことから、利用者用コピー機付属のコインバンダーの入替手続きを進めた。 弁償発生時には、手続きがスムーズに進むよう丁寧な説明と対応を心掛けた。 利用者から寄せられるご意見やご要望は現場での完結を原則として対応。発生経緯や経過等については、日々の業務日誌を通じて図書館県職員と共有した。また、朝礼及び館内整理日の機会にスタッフ全体で共有することで、均一な対応と再発の防止に努めた。 	B
	<p>5) 国立国会図書館への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵する資料の書誌情報提供・更新 	<ul style="list-style-type: none"> NDLサーチのシステム更新に関連し、当館から定期送信している抽出データ(新規登録及び更新分)に一部不具合があること、また、図書資料がマイクロ資料として取り込まれている状況を確認。当座の対応として抽出データの中間処理手順を取りまとめ、9月からデータのアップロードを再開した。 上記検証の過程で、有効な所蔵データがあるにも関わらずNDLサーチ内から当館の所蔵データが削除されている状況を確認。原因を特定の上システム保守管理者と共有し、プログラムの修正について検討を依頼した。 	B
<p>(施設所管課評価)</p> <p>○成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> I-ルームの運営に係り、これまで所蔵の無かった防災ボードゲームの受入れ・登録・装備方法の検討、貸出・返却手続きなどの運用ルールの整備、ゲーム内容・同梱物・対象・プレイ人数・プレイ時間の目安をまとめた案内資料を作成し、利活用に備えた。 館内の蔵書検索機の「くらしコーナー」配架資料の場所名表示を「くらし/シニア」「くらし/健康」「くらし/家庭」「くらし/生活」に修正し、データと資料現物のジャンル分けを対応させることにより、利用者・職員双方にとって資料を探しやすく、かつ、利用しやすい環境を整えた。 <p>●改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 			B
<p>4 相談機能の維持充実に係る業務</p>	<p>1) レファレンス・サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> 受付・調査・回答 レファレンス事例の集約 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は文書、口頭、電話での依頼17,423件に対応した。このほか、実際のレファレンス事例に基づくポスター展示「岩手のトリビア」を10月から実施。 当館ホームページで公開している「レファレンス事例データベース」に23件、国立国会図書館運営の「レファレンス協同データベース」に15件の事例を新たに追加した。 	B
	<p>2) 利用案内</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者に対する利用案内 ホームページによる利用案内(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は館内見学及び出前見学会をあわせ96件、2,608名の見学に対応した。 館内の蔵書検索機のログイン機能の利用を促すため、利用手順等をまとめた案内チラシを新たに作成。また、岩手日報電子縮刷版の利用に係る複写申込書の記入について、しばしば問い合わせを受けることから記入例を作成・提示。このほか、国立国会図書館の遠隔複写サービスの運 	A

		<p>用変更に係り、「他館資料複製申込書」の裏面に確認事項一覧を印刷し、申込時に指定可能事項を漏れなく確認できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童コーナー配架資料の移動や新コーナーの追加を反映した新たな配架図を作成。ルビや写真などもあしらい、子どもにも分かりやすいよう工夫した。 ・ 相互貸借及び郵送複写サービスについて、調査研究にも役立つことから利用者向け広報紙で特集を組み、サービスの仕組みや申し込み手続きを紹介した。 	
	<p>3)郷土関係書誌情報データサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土関係レファレンス事例データベース（再掲） ・ 岩手日報郷土関係記事索引 ・ 郷土関係雑誌目次集 ・ 市町村図書館等が所蔵している雑誌・新聞所蔵目録 ・ 県人台帳 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度はレファレンス事例データベースに新たに23件の事例を追加した。 ・ 岩手日報社から提供いただいている記事見出しデータを毎月定期的に取り込んだ。令和6年度は23,137件の見出しデータを投入。 ・ 令和6年度は新たに239件の郷土関係雑誌の目次データを図書情報システムに入力した。 ・ 市町村図書館等が所蔵している雑誌・新聞所蔵目録について、12月から3月にかけて調査及び調査結果の取りまとめを行った。データは令和7年3月末に公開済み。 ・ 令和6年度は新たに57件の県人台帳データを登録した。 	B
<p>(施設所管課評価)</p> <p>○成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手日報電子縮刷版の複写申込書について、口頭での説明に加え、記入例を作成する等、視覚でも伝えることにより、利用しやすい環境を整えた。 ・ 児童コーナーの配架図を子どもでもわかるようリニューアルし、利用しやすい環境を整えた。 <p>●改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 			B
<p>5 今日 的課題へ の対応に 係る業務</p>	<p>1)課題解決支援等情報発信サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日的課題の解決支援 ・ I-ルーム（震災、防災等の学び合いスペース）の企画運営（利活用促進、連携展示、貸出、利用案内、会場の管理、情報発信） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いわて県民計画」に掲げられた10の政策分野に関連させ、個人や地域の課題解決に資する展示等を実施。 ・ “健康・余暇”に関しては「くらしコーナー」での資料提供を中心に、「がん情報ギフト」での情報提供、岩手医科大学附属図書館や県長寿社会課との連携展示、また、ウォーキングやスポーツ吹矢のイベントを開催。 ・ “家庭・子育て”に関しては「子育て応援本コーナー」での資料提供のほか、あかちゃん向けおはなし会、県福祉総合相談センターとの里親に関する連携展示を実施。 ・ “安全”に関してはI-ルームの運営を中心に、県土整備部や東日本大震災津波伝承館等との連携展示、日本赤十字社やフェーズフリー協会等からの講師派遣によるワークショップ、ふるさと未来課職員が講師となつての子ども向け防災イベントなど多数実施。 ・ “参画”に関しては、読書バリアフリー法の理念実現に向けた取り組みの一環として、「るんびにい美術館『であい授業』in 岩手県立図書館」を開催。また、岩手高等学校の生徒によるパラスポーツ支援をテーマとしたポスター展示を実施。 ・ “自然環境”に関しては、盛岡市環境企画部との連携による気候変動対策パネル展及び環境学習講座、大槌沿岸センターとの連携による東日本大震災と海洋環境の変化に関する講演会を実施。 ・ このほか、各種強化月間・週間にあわせ、岩手県自閉症協会、岩手県労働委員会、盛岡地方法務局等との連携展示を行った。 ・ I-ルームの運用が本格的に始まったことから「ふるさと未来課」を新設し、企画運営や情報発信等を担当。教職員向け研修の会場でのI-ルームやセット貸出の利用案内、I-ルーム紹介パンフレットの作成など、サービスの周知と利用促進に努めた。 ・ 年間を通じてI-ルームを活用した探究学習に対応。受入れに際しては、スムーズな進行と学習の深化に資するよう事前に関連資料を用意しておくとともに、当日は担当職員を複数名配置し、書架案内や資料検索の補助、資料利用に係る相談、事後学習用のセット貸出等に対応した。 ・ I-ルームを会場に、震災・防災について学ぶ「I-セミナー」を開催。企画にあたっては、遠野市教育委員会、日本赤十字社岩手県支部、NPO法人災害救助犬ネットワーク、花巻北中学校等、外部の機関等にも御協力いただいた。また、職員自身が講師となり子ども向けの防災イベントも開催した。 	A

		<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災や自然災害一般に関して、県土整備部、日本赤十字社、三陸鉄道株式会社、岩手日報社等、外部の機関・団体からパネル等を借用して連携展示を実施。 「ぼうさいこくたい2024in 熊本」での屋外展示ブース出展に際しては、図書館県職員とも協働し、当館が行っている復興教育支援の取り組みをパネルや動画、リーフレットで紹介。さらに県教育委員会作成の「いわての復興教育」絵本の読み聞かせも行った。10/19、20の両日合わせて約400名がブースを訪れた。 このほか、コーナー運営の情報収集を兼ねて、震災・防災関連のセミナーや研修会に参加するとともに、年間を通じ「いわて防災復興研究会」の運営補助にあたった。 	
(施設所管課評価) ○成果のあった点			
<ul style="list-style-type: none"> 「いわて県民計画」に掲げられた10の政策分野に関連させ、個人や地域の課題解決に資する展示等の実施や、岩手県自閉症協会、岩手県労働委員会、盛岡地方法務局等、関係機関との連携展示を行い今日的課題の解決に向けた支援を行った。 I-ルームの運用が本格的に始まったことから「ふるさと未来課」を新設し、教職員向け研修の会場での利用案内やI-ルーム紹介パンフレットの作成等、サービスの周知と利用促進に努めた。 			A
●改善を要する点			
・ 特になし			
6 学習 機会の提 供と読書 活動の奨 励に係る 業務	1) 交流の場の提供 ・ 主催事業の企画・ 実施 ・ 県立図書館ボラン ティア活動の実施 ・ 施設利用 (読書推 進活動、図書館活 動、文化的活動にお ける施設利用)	<ul style="list-style-type: none"> 児童担当を主体とした新たなおはなしグループ「おはなし どんぶらこ」を立ち上げ、英語のおはなし会や季節に絡めたおはなし会を開催した。 児童向けとして「宿題おうえん隊」や「謎解きミッション」のような図書館利用教育の側面を持つイベント、「あなたもたくぼくさん じつと手を見てひとこと」「方言いえるかな？」などの参加型イベント、工作イベント、「新春幸運福袋！」など季節に合わせたイベントを開催した。 一般向けとして企画展開連の映画会やクッキングイベント、朗読会、手づくり講座、講演会等を開催。また「I-セミナー」の冠称を付した防災関連イベント、来館者同士の相互交流を促すボードゲームイベントも多数開催した。 ボランティアの募集に当たっては、より自律的な活動ができるよう、読み聞かせボランティアを個人登録制から団体登録制に移行。令和6年度は読み聞かせ4団体(28名)、書架整理11名、図書修理10名に活動していただいた。 他団体等によるI-ルームの活用を想定し、利用要綱案を作成。 いわて防災復興研究会をはじめとしたI-ルームでの他団体主催事業の実施、また、I-ルーム及びミニシアターを会場とした「第3回高校ビブリオバトル岩手県大会」の開催に際しては、会場設営や機器設定等のサポートを行った。 	A
	2) 学校教育の支援・援助 ・ 読書活動の推進 ・ 調べ学習等学校教育の援助 ・ 就労体験実習、司書実習、研修の受入	<ul style="list-style-type: none"> 出前見学会の実施や学校向けセット貸出の周知・対応など、適正に実施。 スタッフ2名が盛岡教育事務所から読書推進委員の委嘱を受け、県内学校図書館等の環境改善に向けたアドバイスや図書修理の指導にあたった。 県内中・高等学校の探究学習の受入れに際しては、時間内にまとまった成果が得られるよう、また、セット貸出にスムーズに移行できるようなスタッフを配置して対応。このほか、図書館を活用した情報収集能力の育成を目的に来館した高等学校には、演習を含む図書館利用に関する講義を行った。 中学生の職場体験学習、高校生及び大学生のインターンシップを受け入れた。また、支援学校からのインターンシップ受入れに際しては、生徒の特性に応じた体験内容となるよう努めた。 司書課程実習の受け入れに際しては、図書館における専門業務を一通り経験していただけるようメニューを組み立てた。 	A
	3) 団体貸出 ・ 申込手続等処理 ・ 貸出・返却の内容 確認	・ 適正に実施。	B
	4) 図書館資料の展示 等 ・ 企画展の実施	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年2月からの企画展「世界に誇る！岩手の無形文化遺産」をはじめ、「地を往きて走らず ～岩手と牛～」 「おかし・いとおかし」 「第36回 啄木資料展」 「美しさを見つめて ～森口多里の生涯～」 を開催。 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示資料の貸出・巡回・返却 	<p>各テーマに応じた資料を紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「第45回手づくり絵本展」の開催期間中は、作品の紛失・毀損が発生しないよう、開館時間帯（9:00～20:00）に常時会場当番を配置。また、期間中、1-ルールの開設にちなむ特別展示「いわての復興教育と防災絵本」を開催した。 ・ 各企画展の巡回について、県内図書館等から希望を募り巡回日程を調整。令和6年度は「地を往きて走らず」「おかし・いとおかし」「啄木資料展」「文学賞受賞図書展」「手づくり絵本展」の5テーマで、令和7年9月初頭までに延べ83館を巡回する。 ・ 巡回展「おかし・いとおかし」では、県内図書館職員へのアンケート結果をまとめたポスター「図書館職員の推しおかし」を大判印刷して同梱した。 	
<p>(施設所管課評価)</p> <p>○成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童担当を主体とした新たなおはなしグループ「おはなし どんぶらこ」を立ち上げ、英語のおはなし会や季節に絡めたおはなし会の開催、参加型イベント、工作イベント、「新春幸運福袋！」など季節に合わせたイベントを開催し、児童の図書館利用と読書推進に努めた。 ・ ボードゲームイベント等、来館者同士の相互交流を促すイベントを多数開催し、図書館利用の促進に努めた。 <p>●改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 			A
7 市町村支援及び連携に係る業務	<p>1) 市町村立図書館等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別業務相談 ・ 市町村立図書館職員等の研修への講師派遣への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス運用等に関する実務レベルの個別相談に随時対応したほか、当館ホームページ「催し物ヒント集」にイベント開催事例を掲載。また、館報「としょかんいわて」で県内図書館でのボードゲームイベントの様子を特集するなど、有用な情報の提供に努めた。 ・ 図書館等主催の図書館サービスに関する研修、県内各教育委員会及び教育事務所主催の読書推進に関する研修など、業務に支障の出ない範囲で可能な限り講師派遣依頼に対応した。 	A
	<p>2) 協力貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村立図書館等からの申込受付 ・ 資料の検索・選択 ・ 市町村立図書館等との連絡調整 ・ 資料搬送事業の実施 ・ 宅配業者との連絡調整 ・ 返却資料の確認、排架・整理 ・ 図書情報システム処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正に実施。 	B
	<p>3) 市町村立図書館等への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専用ネットワーク「市町村ログイン」による情報提供 ・ 市町村立図書館等への郷土資料データ提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正に実施。 	B
<p>(施設所管課評価)</p> <p>○成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館等主催の研修会、県内各教育委員会及び教育事務所主催の読書推進に関する研修会等の講師派遣依頼に対応し、図書館の専門性を生かした研修や講義を行った。 <p>●改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 			B
8 関係団体等連携に係る業務	<p>1) アイーナ内の各施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携事業の企画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝夕のミーティングでの情報共有を基本に、定期防災訓練での連携、共通の広報媒体への情報提供などを行った。 ・ アイーナ指定管理者グループとの地域清掃活動や「親子でアイーナバックヤードツアー」への協力、子育てサポートセンターでのスタッフによる読み聞かせ会の開催、視聴覚障がい者情報センターとの共催によるバリアフリー映画会の開催など、個別の入居団体との連携にも努めた。 	B
	2) 学校・大学・専門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館を起点として、より専門的な情報や機関へのアクセスの促進を 	A

	図書館及び関係機関・団体との連携 ・ 県内図書館等行事への協力・連携 ・ 岩手県図書館協会、岩手県読書推進運動協議会活動への参加・協力・連携	図るため、岩手医科大学附属図書館、岩手県保健福祉部長寿社会課、岩手県労働委員会、盛岡地方法務局、岩手県福祉総合相談センター等との連携展示、また、るんびにい美術館や大槌沿岸センター等からの講師派遣を受けてのイベント開催に取り組んだ。 ・ I-ルールの企画運営に係り、東日本大震災津波伝承館、岩手県県土整備部等との連携展示、また、日本赤十字社、NPO 法人災害救助犬ネットワーク、一般社団法人フェーズフリー協会等からの講師派遣を受けてのイベント開催に取り組んだ。 ・ このほか資料の寄贈に係り、インド大使館ヴィヴェーカナダ文化センターによるヨガセッション、さいたま市立大宮図書館による贈呈式の実施について広報や調整を行った。 ・ 県図書館協会主催の研修会への講師派遣、県読書推進運動協議会主催事業の広報への協力、また、「手づくり絵本展」の開催に際しては、会場設営や会場当番などに協力した。	
(施設所管課評価) ○成果のあった点 ・ 関係団体や関係機関との連携については、特別展示の開催や、講師派遣を受けてイベント開催に取り組むなど、積極的に連携・協力している。 ●改善を要する点 ・ 特になし			A
9 利用者の安全安心の確保	1) 危機管理対策 ・ 日常安全点検 ・ 危機管理対策	・ 経年により施設・設備の不調が目立つようになってきており、3階高書架に付属の間接照明の不点灯状況、調査研究室室内でのカビの発生など、県職員とも状況を共有しながら解消方法の検討に協力した。 ・ 6月、10月、2月に実施された定期防災訓練に参加。2月の地震発生を想定した訓練では、フロアを共有する視聴覚障がい者情報センターの避難補助訓練（車椅子利用者の階段移動）、ミニシアターやI-ルームでのイベント開催を想定した各部屋からの退去、一時待機、避難誘導までの流れの確認も行った。 ・ 5月の止水板の設置訓練にスタッフ11名が参加。実際の設置場所で部材の組み立て作業を行った。 ・ このほか、アイーナ管理事務室主催のAED講習を8名が受講した。	B
(施設所管課評価) ○成果のあった点 ・ 視聴覚障がい者情報センターの避難補助訓練（車いす利用者の階段移動）、ミニシアターやI-ルームでのイベント開催を想定した各部屋からの避難訓練を行い、非常時に備えた。 ●改善を要する点 ・ 特になし			B
10 その他	・ 利用状況等の把握（その他統計調査・分析含む） ・ 運営に必要な消耗品費の支出に係る情報提供 ・ 郵便物・宅配便等の收受・発送 ・ 電話受付・交換	・ 適正に実施。	B
(施設所管課評価) ○成果のあった点 ・ 県内図書館等との連携を図り、相互の利用促進等に積極的に取り組んでいる。 ●改善を要する点 ・ 特になし			B

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」
指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項

- 令和6年度から、I-ルームの企画運営を担当する「ふるさと未来課」を新設。年間を通じて「いわての復興教育」や探究学習の支援、震災関連資料のセット貸出、I-セミナーの開催や「いわて防災復興研究会」の運営補助、他団体との協力・連携による展示等に取り組んだ。I-ルームの運営においては、現状、学校教育現場や震災・防災関連機関との連携が不可欠だが、この部分は指定管理者単独ではどうしても訴求力を欠く。この点、館長をはじめとした県職員の方々の協力により、教職員向け研修の場にI-ルームのPRブースを設けさせていただいたり、県内学校をターゲットとした催事情報提供を行うことができたり、関係機関との仲介をしていただいたりと、協働体制のベースがあった上で利用活性化に向けた動きが取れたものと考えている。「ぼうさいこくたい2024in熊本」についても、当日の会場設営やブース運営に協力して臨んだことで400名の方にご来場いただくことができた。
- 今日的課題の解決支援に向け、『いわて県民計画』の10の政策分野に関わる取り組みを行った。一例として、家族・子育て分野については、岩手県及び盛岡市の子育て支援事業「いわて子育て応援の店（ほのぼの店）」「赤ちゃんの駅 DAKKO（だっこ）」への登録、秋と冬に開催した「あかちゃん向けおはなし会」、連携展示「知ってほしいな、里親のこと」など。安全分野については、「家族で防災について学ぼう in 遠野」「紙ぶるるを使って地震防災について学ぼう」「みんなで学ぶフェーズフリー」などI-セミナーの冠称を付したイベント、また、他機関等との連携による防災関連展示に取り組んだ。
- 図書館の利用に障がいのある方への配慮の一環として、職員内でバリアフリーサービスの検討チームを立ち上げ、LL利用案内の作成を手始めに具体的な検討作業を行っている。このほかにも「るんぴにい美術館『であい授業』in岩手県立図書館」の開催、視聴覚障がい者情報センターが主催するバリアフリー映画会の開催補助など、障がいへの理解促進と社会参画の端緒となる取り組みを進めているところである。

② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項

- I-ルームの運営について、機器類やパーテーションの導入により、多様な利用方法に対応できるようになった。一方で現在、書棚の空きスペースがほとんどない状況であり、今年度予定されている新書架の導入により改善されることを期待している。今後さらに利便性を高める上で、ハード面ではイベント時用の軽量の椅子の確保、北側照明の増設、配架資料のラインナップ拡充が必要と考える。ソフト面においては「いわての復興教育」のサポートや探究学習への対応に努めるほか、地域コミュニティ等との連携推進に引き続き取り組んでいきたい。
- 雑誌の休廃刊や継続購入タイトルの見直しに伴い、利用されやすいタイトルが減り、雑誌書架に空きが目立つようになってきた。また近年は、サブスクリプションサービスに完全移行する雑誌、郷土関係逐次刊行物の中にも電子データの提供のみとなるものが増えてきており、資料の収集・提供・保存の面で課題となってきた。特に後者については現状、印刷・製本のうえ所蔵しており、印刷費や消耗品費（製本用資材等）が漸増していくことが予想されるので、状況に応じて適宜協議しながら進めていきたい。
- ここ2年ほどは年間の受入冊数が増加したものの、増加分の多くは自然災害や防災関連資料である。それ以外の分野については依然として更新が鈍い状況にあり、各種展示等で現有資料の有効活用に努めているが、貸出等利用数の増加には至っていない。読書バリアフリー法の施行に係り職員内に検討チームを立ち上げ、その中でバリアフリー資料を集約したコーナーの設置について検討するなど、新規性を持った取り組みも視野に入れている所であり、県と指定管理者とで協力しながら利用増加に向けた取り組みを進めていきたい。
- 年度末にまとまった量の資料購入があり、伴って児童書や防災関連資料のブックコート作業が多く発生している。できるだけ早く書架に並ぶよう急ぎ作業を進めているところだが、予め購入することが決まっている資料は早めに発注し、装備付きの状態での納品されるようになれば、消耗品費（コートフィルム）の節約や配架までの時間短縮につながるのではないかと考える。
- 県庁各室課や他機関等との連携展示が増加傾向にあり、伴って3階吹き抜けや北側壁面を展示スペースとして使用する機会が増えている。現状、壁面への直接貼付やパーテーションを用いて展示を組み立てているが、I-ルームのようなピクチャーレールが設置されれば、パネル展示等での便が良くなるのではと考えている。

③ 県に対する要望、意見等

- ・ 開館後まもなく 20 年が経過することもあり、備品・設備類の老朽化が見られる。展示コーナーの平台ケースのように作業者の安全に関わるもの、書架の間接照明のように閲覧の便に関わるもの、帳合い機やブックチェックユニットのように事務効率に関わるもの、16 ミリフィルム映写機やブックポストのようにサービス提供に関わるものなど様々で、優先順位の共通認識を持ちながら計画的に修繕・更新していく必要があると考える。特に書架の間接照明は代替が利かず、複合施設全体で進められている LED 化計画だけではカバーできない重要な光源でもあるので、できるだけ早期の対応を願いたい。
- ・ 貴重書庫資料の燻蒸処理について、貴重書以外は数年かけて一巡している状況であり、虫害リスクの増加を懸念している。処理頻度の減少をカバーする別途のリスク低減策の検討も必要だと考える。また、調査研究室内に発生するカビについては根絶が難しいようなので、施設管理者への継続的な働きかけが必要だと考えている。資料保存に関しては専門的知見が必要な分野でもあるので、美術館・博物館等の類縁機関の協力も得ながら有効な方法を検討していければと考える。
- ・ 古文書等や東日本大震災関連資料のデジタル化作業が進められているところだが、その一方で、資料現物の補修や裏打ち作業はさほど進んでいない。県指定文化財となった『岩手県管轄地誌』についても、附図の多くは裏打ちが済んでおらず、閲覧に供せる状態にない。デジタル化の前段階となる補修・裏打ちなどの保存処置についても一定の配慮が必要だと考える。
- ・ 令和 7 年度でフィルムベースや処理薬品類のメーカー販売が終了するため、今後はマイクロフィルムの新規作成や複製が難しくなる。波打ちなど既に劣化が見られるフィルムへの処置も必要であるが、特に利用頻度の高いフィルムについては、デジタルデータ化により利用と保存とで媒体を使い分けることも必要だと考える。
- ・ 昨年度は県内図書館からまとまった量の寄贈があった。当館蔵書の補完・欠本補充の意味合いがあることは承知しているが、いずれも古い資料であり、受入れ後の利用はほぼ無いと予想される。受入れに際しては、書庫の空き状況も勘案した総合的な判断になると良いのではないかと。現状、郷土書庫は賢治・啄木関連資料や震災関連資料の増加により狭隘化しており、また、前項のマイクロフィルムを巡る情勢の変化により、今後は全国紙主要 3 紙（朝日、毎日、読売）の原紙保管スペースの確保も必要になってくる。書庫スペースの効率的な運用方法について、一度、検討しておく必要があると考える。
- ・ 相互貸借のうち、他館からの借受資料がやや増加傾向にある。収集方針や選定基準による制約は承知しているが、借受・返却に要する費用を考慮すれば、資料によっては購入という選択肢を持つことも必要だと考える。また、相互貸借の利用方法については「北日本図書館連盟図書館資料相互貸借規程」等、図書館間に適用される運用ルールはあるものの、窓口での受付に関わる明文化されたルールは無い。他館借受が今後さらに増加してゆくであろうことを念頭に、申込受付に関する基本的な運用ルールを設けておく必要性が高まってきていると考えている。

(2) 県による評価等

① 指定管理者の運営状況について

おおむね要求水準書どおりの運営が行われている。

- ・ 図書館運営の品質向上について
各種研修会へ職員を参加させるとともに、キャリアに応じた職員向け研修会を開催するなど、利用者の多様なニーズに適切に対応するための研修を実施している。
- ・ 図書館サービスについて
今日的課題から郷土関係、震災・防災関係まで幅広い分野にわたる展示・催事を企画し、利用者から好評を得ている。また、県の他部局、学校等との連携企画を積極的に行っている。

② 県の対応状況について（自己評価）

- ・ 指定管理者の業務については、毎日の業務日誌や月次報告等により確認を行っている。その他、定期的な週次会議や定例会議を行うなど、相互に情報共有を図りながら協力・連携し、適切な図書館運営に努めている。
- ・ 資料費の確保、設備（備品・機器類）の更新・修繕等については、引き続き予算措置に努め、よりよい図書館運営につなげる。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等

- ・ 専門的知識のある人員の安定的な確保。
- ・ I-ルーム（震災、防災関連）の効果的な運営・管理の人員確保。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）
該当なし
改善状況
(指定管理者から県への報告年月日：令和 年 月 日)
改善状況の確認
(確認年月日 令和 年 月 日)